

第33回例会報告(2月26日)

【出席報告】

・会員数 56名

· 出席数 36名

・欠席数 20名

・当日出席率

71.11%

・前々回修正出席率

87.5 %

<欠席会員>天野、檜垣(巧)、飯沼、伊藤、小堀、近藤(浩)、久米、松木、松田、尾越、竹田、吉武、渡辺(昜)、

[免除会員]青野、原(真)、原田、松本、宮本、村上(敬)、坂本

< 2/12欠席補填 > (2/16今治北) 菅 (2/23今治北) 久米 (2/22米山) 越智(務)

会長報告・今治RC事務局 村上昌子さんが2月末日をもちまして退職されました。

・村上裕一ロータリー財団委員長のポールハリスフェロー感謝状は、地区大会のおり、代 表者としてご登壇頂き贈呈させていただきますとガバナー事務所より連絡がありました。

新世代活動委員会 ライラに重松建設株式会社 青野謙吾様が参加されます。

国際奉仕委員会

「変質するロータリー」村上修三世界社会奉仕委員長

バングラディシュとのプロジェクトの状況ですが、グラミン銀行を通じた奨学金は1月に地区から2万\$を送金。続けていくための覚書契約書が届き、署名する予定。また学校建設に関しては、今月中に設計図が送られてくる予定で、交渉は進展している。

ロータリー財団が同額を集めることを条件に、1億 \$ の補助金をポリオ撲滅のためビルゲイツ財団から受け取ったこと、決議23 - 34がロータリー章典から削除されていた(歴史



的文献扱いで復活)問題など考えていくと、ロータリーの大きな枠組みを揺るがす問題だ。人道的プログラムは大事であるけれども、一人一人がロータリーの本質を見きわめないと誇りの持てない会になってしまう。佐藤千壽氏も「他人の金で奉仕をするという虚構」という遺稿で警鐘を鳴らしている。わが地区の学校建設、奨学金などの奉仕活動は顔の見えるロータリーらしい奉仕といえる。皆さまのご協力お願いします。

「小さな国際奉仕」冠康秀国際奉仕委員長

2000年青年会議所に在籍していた時、グローバルトレーニングということでカンボジアへ行った。寺院に寝泊まりし、村の子供たちと交流したり柵を作ったりした。最初の村はプノンペンから2時間のところでガスはなく、池の水をシャワー・トイレに使っており井戸を掘るにも車のエンジンで掘っていた。プノンペン市内ではSVAというNGO団体へ児童図書を寄贈し、寺院の一部を開放した図書館等へ慰問に行った。子供達は読み書きを始めお互い助け合いながらやっていた。小学校へは78%の入学率だが卒業は20%に満たな



い状況で、ポルポト政権下で知識人が殺され2万人いた教師が2800人しかいなかった。子供達は家計を助けるため学校へ通っている状態ではなかった。その他トゥールスレン博物館や処刑場など訪問したが、ポルポト政権下の厳しい内戦の状況が窺えた。これからも身の丈に合ったボランティアを続けていきたいとたくさんの写真を紹介しながら語った。

<ビジター>大阪うつぼRC 桑森 ひとみ様

次回例会(3月5日)

【 クラブ奉仕委員会アワー 】

<会員誕生祝> 原田 政一氏(3/14)

< 夫人誕生祝 > 尾越 優氏(3/7) 光藤 廣司氏(3/8) 横井 和美氏(3/11) 越智 務氏(3/13)

原 真也氏(3/15) 村上 修三氏(3/17) 渡邉 一志氏(3/17)

< 入会記念祝 > 近藤 正人氏(3/9) 檜垣圭之介氏(3/13) 金森 節生氏(3/13)

< 結婚記念祝 > 飯 忠悟氏(3/5) 原 真也氏(3/10) 原田 政一氏(3/15) 吉良 敏彦氏(3/15) 吉田 透氏(3/16) 戸梶 學氏(3/16)

〔 俥屋 〕